

インターバンクの声（2017年11月1日）

次期FRB議長にハト派寄りのパウエル FRB 理事が有力との報道や、昨年米大統領選でのロシアによる干渉疑惑を巡る捜査でトランプ陣営の選挙対策本部長らが起訴されたこともあって、昨日の東京市場でのドル円は何度か 113 円を割り込んだ。ロンドン市場入りしてもドルの上値が重く、米経済指標の結果や米長期金利動向によっては円買い・ドル売りが進みそうでもあった。

さいわい米金利はゆっくり上昇、ドル円も 113 円 40 銭前後に戻して 10 月の米シカゴ購買部協会景気指数や消費者信頼感指数の発表を待つことになった。指標結果がいずれも市場予想を大きく上回ったことから 113 円台中盤に落ち着き始めていたが、その後、トランプ大統領が税制改革について「クリスマスまでに実現することを期待する」と表明したことから、ニューヨーク市場の後半にはもう一段ドル高の 113 円 70 銭前後まで上昇した。

113 円割れの水準ではドル買い意欲があることが確認されたようにも見えるが、ロシアゲート疑惑の解明も始まったばかりで、大統領がいくら税制改革を急ぐと言っても道筋はそう簡単ではないだろう。相場も益々難しくなってきた。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。